

特許協力条約

PCT

国際調査報告

(法8条、法施行規則第40、41条)
[PCT18条、PCT規則43、44]

(2)

出願人又は代理人 の書類記号	PCT01-05015		今後の手続きについては、様式PCT/ISA/220 及び下記5を参照すること。
国際出願番号	PCT/JP2005/005076	国際出願日 (日.月.年) 15.03.2005	優先日 (日.月.年) 30.03.2004
出願人 (氏名又は名称)	パイオニア株式会社		

国際調査機関が作成したこの国際調査報告を法施行規則第41条 (PCT18条) の規定に従い出願人に送付する。
この写しは国際事務局にも送付される。

この国際調査報告は、全部で 4 ページである。

この調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。

1. 国際調査報告の基礎

a. 言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願がされたものに基づき国際調査を行った。
 この国際調査機関に提出された国際出願の翻訳文に基づき国際調査を行った。

b. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでいる (第I欄参照)。

2. 請求の範囲の一部の調査ができない (第II欄参照)。3. 発明の单一性が欠如している (第III欄参照)。4. 発明の名称は 出願人が提出したものを承認する。

次に示すように国際調査機関が作成した。

5. 要約は 出願人が提出したものを承認する。

第IV欄に示されているように、法施行規則第47条 (PCT規則38.2(b)) の規定により国際調査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から1ヶ月以内にこの国際調査機関に意見を提出することができる。

6. 図面に関して

a. 要約書とともに公表される図は、
第 5 図とする。 出願人が示したとおりである。

出願人は図を示さなかったので、国際調査機関が選択した。

本図は発明の特徴を一層よく表しているので、国際調査機関が選択した。

b. 要約とともに公表される図はない。

第IV欄 要約（第1ページの5の続き）

位置ずれが生じたときの再生性能の劣化が防止でき、安定的に記録又は再生を行うことを可能にするホログラム記録用2次元変調方法を提供する。このホログラム記録用2次元変調方法は、複数の画素が2次元的に配置された空間光変調器を介してページデータを含む可干渉光を生成するものであって、空間光変調器の画素を、各々が隣接するm画素（ただし $m = 整数$ ）からなる複数のブロックとなるように区画し、少なくとも、空間光変調器の画素1個分の若しくは記録されたページデータの再生に用いる像検出センサの画素1個分に相当する幅及び各ブロック内の隣接する画素間の距離を有する幅を有しあつ遮光する境界部を、隣接するブロック間に設けるものである。

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. C17 G11B 7/0065, 7/135, G03H 1/02, 1/12, 1/26

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. C17 G11B 7/0065, 7/135, G03H 1/02, 1/12, 1/26

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2005年
日本国登録実用新案公報	1994-2005年
日本国実用新案登録公報	1996-2005年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	JP 49-3646 A (富士通株式会社) 1974. 01. 12 全文, 第1-2図 (ファミリーなし)	1-11
A	JP 2000-123133 A (日本ビクター株式会社) 2000. 04. 28 全文, 図1-24 (ファミリーなし)	1-11

 C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す
もの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日
以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行
日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する
文献 (理由を付す)

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって
出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論
の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明
の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以
上の文献との、当業者にとって自明である組合せに
よって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

08. 07. 2005

国際調査報告の発送日

26. 7. 2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

五貫 昭一

5D 9368

電話番号 03-3581-1101 内線 3550

C (続き) 関連すると認められる文献		関連する 請求の範囲の番号
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	
P, A	JP 2005-31560 A (ソニー株式会社) 2005. 02. 03 全文, 図1-13 (ファミリーなし)	1-11